

特別支援学校における複数の種類の障害を併せ有する児童生徒に関する調査

この調査
8月31日

「記入についての説明」 及び 記入例

研究所
Education

[専門研究B]「特別支援学校における障害の重複した子どもの一人一人の教育的ニーズに応じる教育の在り方に関する研究—特別支援学校における障害の重複した子ども一人一人の教育的ニーズに応じる教育の在り方に関する研究—現状把握と重複障害教育の枠組の検討—」

この調査は、第1部、第2部、第3部の3つ部分で構成されています。

- 第1部は、学校の基本的事項
- 第2部は、複数の種類の障害を併せ有する児童生徒
- 第3部は、複数の種類の障害を併せ有する児童生徒

ご回答いただく方は、校長(分校長・分教室の長)あるいは分校長(分教室)の状況を把握する立場にある方を想定しています。

この調査では、データの精度を確保するために、ご回答いただく**学校の名称と記入者の職氏名等をお尋ねしますが**、個々のデータは、それぞれの学校が対象とする障害種などの特徴を括り、全体として集計・整理・分析します。個々のデータは、学校や設置者などが特定される形式で、公表することはありません。

関わる学校

回答欄

学校(分校)の名称と調査回答いただいた方(回答を取りまとめていただいた代表者)の職名・担当・氏名

学校名 (及び分校・分教室名)	〇〇県		立	〇〇特別支援学校			
	※ 本校・分校・分教室の別が分かるように記述してください。						
回答者の 職名・担当・氏名等	職名	副校長	担当	総務	氏名	〇〇 〇〇	E-mail 〇〇@〇〇. 〇〇jp

「複数の種類の障害を併せ有する児童生徒」について

この調査では、児童生徒の障害の状況について、その障害の種類や程度に関わらず、また、在籍する学級が単一障害学級か重複障害学級かに関わらず当該の学校に在籍する児童生徒のうち、複数の種類の障害を併せ有する児童生徒を対象としています。ここでは、これらの児童生徒を総称して「**複数の種類の障害を併せ有する児童生徒**」とします。

対応とする障害種は、その学校の設置者が定めている障害種について、記入してください。

第1部 学校の基本的事項

1. 学校が対象とする障害種について

学校が対象とする障害種について、該当する所に○を記入してください。(調査時点で在籍者がいない場合にも記入してください。)

	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱
幼稚部					
小学部	○				
中学部	○				
高等部					

複数の障害種を対象とする場合、各障害毎にいわゆる教育部門を設けている場合と、設けていない場合があります。該当する項目に○を記入してください。また、その他の対応をしている場合には、記述してください。

2. 複数の障害種を対象とする場合の教育部門等の設置などについて

複数の障害種を対象とする場合には、教育部門等の設置などについて、該当する所に○を記入してください。

①障害種毎に教育部門を設けている。	
②教育部門を設けていない。	
③その他 ()	

第2部 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育体制に関する事項

複数の障害の障害を併せ有する児童生徒

専門的知識や技能のある教員とは、例えば、当該の障害の特別支援学校免許を取得していること、当該の障害を対象とする特別支援学校での指導経験があること、当該の障害を対象とする特別支援学級や通級による指導の指導経験などを参考に判断してください。

1. 専門的知識や技能のある教員について

学校が対象とする障害種以外の障害について、該当する項目に○を記入してください。(※「記入についての説明」を参照してください。)

①視覚障害の専門的知識や技能のある教員がいる。	○
②聴覚障害の専門的知識や技能のある教員がいる。	○
③知的障害の専門的知識や技能のある教員がいる。	
④肢体不自由の専門的知識や技能のある教員がいる。	
⑤病気の専門的知識や技能のある教員がいる。	
⑥自閉症の専門的知識や技能のある教員がいる。	○
⑦学習障害の専門的知識や技能のある教員がいる。	
⑧注意欠陥多動性障害の専門的知識や技能のある教員がいる。	

専門職の活用状況については、

- A: 毎日勤務している** その学校に常勤として勤務している場合
- B: 定期的に関わっている** 勤務日が特定されている非常勤として勤務している場合、あるいは、定期的に招聘している場合
- C: 必要に応じて関わっている** 必要に応じて、招聘する場合、あらかじめ委嘱し、必要に応じて勤務する場合
- D: 関わっていない** 該当の専門職等を招聘したことがない場合などを想定しています。

2. 専門職の活用について

専門職等の活用について該当する項目

A: 毎日勤務している B: 定期的に関わっている C: 必要に応じて関わっている D: 関わっていない

①理学療法士(PT)	C
②作業療法士(OT)	C
③言語聴覚士(ST)	B
④臨床心理士、カウンセラー等の心理の専門家	D
⑤医師(障害に関わる専門医)	B
⑥看護師	A
⑦介護福祉士、介護ヘルパー等介護の専門職	D
⑧学校が対象とする障害種以外の障害種	C
⑨その他()	

学校が対象とする障害種以外の障害について、記入してください。

各障害の特性等に配慮し、例えば、**肢体不自由では、**車いすや補助用具等の多様な移動方法を考慮し、高さ等の調節可能な机、棚などの家具を利用しやすいように設置すること、運動・動作の改善や習得のための教室を設けていることなど、**病気への対応には、**点滴を行いながらの活動等にふさわしく、教員等が介助しやすい空間の構成することなど、**聴覚障害では、**相手の口元や表情が見やすいよう机等を配列できる教室空間の設定、補聴システムや文字情報システムなどを設置することなど、**視覚障害では、**児童生徒が、教室における自分の位置を容易に確認し、円滑に利用することができるよう、ロッカー等の家具の配置することなど、**知的障害では、**更衣スペースや更衣ロッカーの設置スペースを確保するなど、日常生活に関する学習の指導を考慮した設備、作業学習のための部屋を設けることなどが考えられますが、これらの例に限らず、それぞれの障害に対応した施設や設備がある場合には、具体的に記述してください。

3. 児童生徒の教育に対応するための学

上記の設問で、専門職等を活用している

①専門的知識や技能のある教師や専門職	
②専門的知識や技能のある教師や専門職	
③専門的知識や技能のある教師や専門職	
④その他()	

4. 児童生徒の教育に対応するための施設・設備の整備について

児童生徒の教育に対応するために整備した施設・設備を記述してください。(※「記入についての説明」を参照してください。)

①視覚障害に対応した施設・設備	
②聴覚障害に対応した施設・設備	相手の口元や表情が見やすいよう机等を配列できる教室空間の設定
③知的障害に対応した施設・設備	
④肢体不自由に対応した施設・設備	車いすにあわせて調節できる机
⑤病気に対応した施設・設備	教員等が介助しやすい空間の構成
⑥その他()	

5. 児童生徒の教育に対応するための教材・教具の整備について

児童生徒の教育に対応するために整備した教材・教具を記述して下さい。(※「記

①視覚障害に対応した教材・教具	拡大本の教材の整備
②聴覚障害に対応した教材・教具	
③知的障害に対応した教材・教具	
④肢体不自由に対応した教材・教具	
⑤病気に対応した教材・教具	
⑥その他(

各障害の特性に配慮し、例えば、**肢体不自由では、**運動障害や姿勢の保持に対応した教具の工夫、コミュニケーションを支援するための機器など、**視覚障害では、**点字や触図、拡大本の教材の作成など、**知的障害では、**絵や写真など視覚的な情報を使った教材やコミュニケーションを支援するための教具など、**病気に対応して、**心理的な安定を図るための情報機器や遊具など、**聴覚障害では、**言語指導のための教材、発音指導のための機器などが考えられますが、これらの例に限らず、それぞれの障害に対応した教材・教具がある場合には、具体的に記述してください。

6. 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育に関わる工夫

複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育で工夫していることについて記述してください。

--

7. 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育に関わる課題

複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育で課題となることについて記述してください。

--

8. 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育に関する研究に関する本研究所への意見や要望

複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育に関する研究について、本研究所への意見や要望がありましたら記入してください。

第3部 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の状況の回答欄の説明

→

5ページからの回答欄の説明

→

第3部は、複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の状況についてお尋ねします。

第3部の調査は、**小学部4年、中学部2年**を対象としています。

障害(教育部門)、学部学年(小学部4年、中学部2年)、学級の種別(単一障害学級、重複障害学級)毎に、回答欄のページを用意していますので、該当する回答欄に記入してください。

第3部 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の状況の回答欄には、2つの障害種の区分(教育部門)分の回答欄を掲載しています。(5ページ～8ページで1つの障害種の区分(教育部門)分、9ページ～12ページで、1つの障害種の区分(教育部門)分) 複数の障害種に対応している学校で、**3障害以上の障害に対応している学校の場合には、**恐れ入りますが、不足する分をコピーしてください。

【調査票の返送・返信先】 この調査票は、以下のようにご返信・ご返送ください。

(1)電子データ(Microsoft Excel)で返信の場合は、以下のE-mailアドレス宛へ、添付ファイルとして送信してください。

本調査専用アドレス v-chofukuchosa@nise.go.jp ← 電子ファイルでは、ハイパーリンクとなっています。

(Vイ ハイホん シー エイチ オー エフ ユー ケイ ユー シー エイチ オー エス エイ アットマーク エヌ アイ エス イー ドット ジー オー ドット ジェイ ピー)

(2)この調査票(紙媒体)をFaxで返信する場合は、以下のFax番号へ送信してください。

Fax番号 046-839-6919 (調査専用)

(3)この調査票(紙媒体)を郵便で返送する場合は、同封の返信用封筒にてお送りください。

〒239-8585 横須賀市野比5-1-1 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

教育研修情報部 主任研究員 大崎博史 TEL 046-839-6841 e-mail v-chofukuchosa@nise.go.jp
企画部 上席総括研究員 松村 勘由 TEL 046-839-6870 e-mail v-chofukuchosa@nise.go.jp

ここでは、複数の種類の障害

- ①学校に在籍する小学部4年
- ②単一障害学級、重複障害学級
- ③複数の障害種に対応している(教育部門)を設けていない

障害種(教育部門)

複数の障害種を対象とする学校では、それぞれの障害に対応した教育部門毎に、小学部4年、中学部2年について、学級の種別(単一障害学級、重複障害学級)毎に、該当する一覧に記入してください。

学校が対象とする障害種、もしくは、教育部門が対象とする障害種を記入してください。続いて、該当する各記入欄に、その人数を数値で記入してください。

記入例では、視覚障害が記入されています。視覚障害を対象とする特別支援学校あるいは、視覚障害の教育部門で、小学部4年の単一障害学級に在籍する児童数が8名であることを示します。

1. 在籍している児童生徒の障害

障害種(教育部門)	学部・学年	学級の種別	当該の学年の当該種別の学級に在籍する児童生徒の総数	8	人
視覚障害	小学部4年	単一障害学級			

明一障害の程度、該当する人数を記入	障害種及び障害の重なり状況														視覚・聴覚・知的	視覚・聴覚・肢体	
	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	視覚・聴覚	視覚・知的	視覚・肢体	視覚・病弱	聴覚・知的	聴覚・肢体	聴覚・病弱	知的・肢体	知的・病弱			肢体・病弱
→	5												3				
→													1				
→			※			※			※				※	※	※		※
→																	
→																	
→	※ 上記の3障害のうち複数の障害が該当する場合																

各障害種及び障害種の重なり状況毎の人数

各障害の重なり状況は、それぞれの障害の程度を問わず、その障害が認められる場合に、それらの障害の重なりとして、その人数を算出してください。

その障害があるかどうかの判断は、医師の診断や専門家の判断だけでなく、教師の観察によりその可能性があるとと思われる場合も含めます。その障害について、学習上、生活上の困難があるもので、教育上の配慮や指導が必要なもの(特別支援学級や通級による指導の対象となる程度のもの)も含めてその人数を算出してください。

この記入例では、視覚障害の単一障害が5名、視覚障害と肢体不自由を併せ有する者が3名で、その内、自閉症かその傾向がある者が1名であることを示しています。

※LDと知的障害とを併せ有する組合せはありません。

教育課程のタイプ

小・中学校の教科等の各教科によって編成:小・中学校の各教科、道徳、特別活動、総合的学習などの時間で編成し、いわゆる「準ずる教育課程」を編成していることを示します。

小・中学校の教科等の各教科(下学年)等によって編成:小・中学校の各教科、道徳、特別活動、総合的学習などの時間で編成し、各教科等の一部あるいは全部を下学年対応で教育課程を編成していることを示します。いわゆる「下学年対応」で編成していることを示します。

知的障害者を教育する特別支援学校の各教科によって編成:いわゆる「知的教科」で教育課程を編成していることを示します。領域・教科を併せた指導も、このタイプに含めてください。

2. 在籍している児童生徒の教育課程

当該の学級に在籍する児童生徒の教育課程について ※添付の「記入についての説明」を参照してください。

教	教育課程のタイプ	人数
①	小・中学校の教科等の各教科によって編成	5
②	小・中学校の教科等の各教科(下学年)等によって編成	
③	知的障害者を教育する特別支援学校の各教科等によって編成	2
④	自立活動を主として編成	1
⑥	その他(記述してください。)	